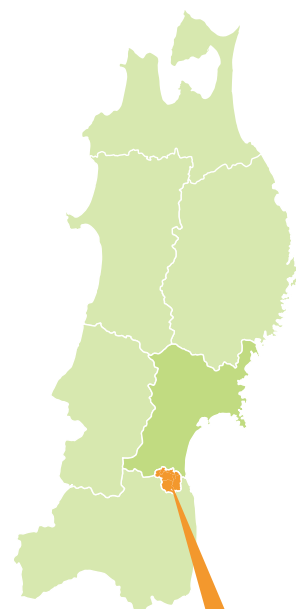


アクセス



宮城県伊具郡
丸森町



電車

仙台駅から(約1時間)

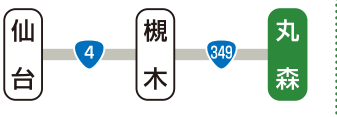


福島駅から(約50分)



自動車

仙台から(約1時間30分)



福島から(約1時間)



東北自動車
新地ICから(約40分)



常磐自動車
新地ICから(約25分)



丸森町 町勢要覧



令和4年3月 発行

宮城県 丸森町

〒981-2192 宮城県伊具郡丸森町字鳥屋120
TEL : 0224-72-2111
FAX : 0224-72-1540
URL : <https://www.town.marumori.miyagi.jp/>

丸森町民憲章

昭和59年12月1日制定

わたくしたちの町は、豊かな阿武隈川を囲む美しい自然と歴史の町です。
わたくしたちは、限りなく躍進する住みよいふるさとをつくるため、この
憲章を定めます。

- 1 思いやりを大切にし、明るい家庭をつくります。
- 2 きまりを守り、和やかな町をつくります。
- 3 働くことに誇りを持ち、豊かな町をつくります。
- 4 心身を鍛え、健康な町をつくります。
- 5 教養を深め、文化の香り高い町をつくります。



町 章

昭和34年9月8日 告示第1号

丸森のマルを図案化して町の和と発展を象徴したもの



【町の花】やまゆり

ゆりの中でも王者といわれ、町内いたるところに自生しています。香気の白い花が、夏の野山を一斉に彩る眺めは壮観です。山に咲く優美な姿は清々しく純朴で心温まるものがあり、古くから人々の心に深く根差しています。



【町の木】すぎ

常緑針葉高木で、山林経営として町内に広く植林されています。すぎの用材は建築を始めあらゆる分野に広く利用されています。真っすぐ伸びる木を意味する真木（すぎ）から由来する名で、町の森、町の伸展を表し、特産を目指しています。



【町の鳥】うぐいす

別名「春告鳥(はるつげどり)」といわれ、春の訪れを告げる鳥として代表的なものです。町内の野山にすみつく留鳥で、その美しい鳴き声は寒い冬から春を待つ人々の心を引き立ててくれる、自然の息吹きを感じさせる鳥です。

ごあいさつ

丸森町長 保科 郷雄



丸森町は宮城県の最南端に位置し、東北第二の大河である阿武隈川が町の北西部を貫流する自然豊かな“水とみどりの輝くまち”です。

この町の先人たちは、社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえながら、優れた知恵と巧みな工夫により歴史を築き上げてきました。今を生きる私たちは、このかけがえのない“財産”を次の世代に引き継ぐ重責を担っています。

しかしながら、現在は、令和元年東日本台風による町政史上最悪となる甚大な被害だけでなく、世界中を巻き込む新型コロナウイルス感染症の蔓延、そして従来から大きな課題であった人口減少や少子・高齢化も依然として進行し続けるなど、解決すべき課題が山積しています。

目の前に立ちはだかる様々な課題は、どれ一つとっても容易に解決できるものではありませんが、先人たちのように皆が一丸となって知恵と力を結集し、『人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり～一人ひとりの“郷土愛”で未来につなげるまちづくり～』を将来像とする第五次丸森町総合計画や、台風災害からの早期の復旧・復興と持続的な発展に向け、『次代につなぐ新たな丸森（まち）づくり』をビジョンとした丸森町復旧・復興計画により、世代を越えて未来へとつながっていくまちづくりを推進していきます。

最後に、この要覧を通じ、丸森町の個性や魅力、そして、これからどのような姿を目指していくのかをご理解いただき、一度足を運んでいただければ幸いです。



丸森町勢要覧 目次

丸森町民憲章・町章・町の花・町の木・町の鳥	1
ごあいさつ	2
丸森町の概要	3
第五次丸森町総合計画	9
令和元年東日本台風	23
復旧・復興への取組	27

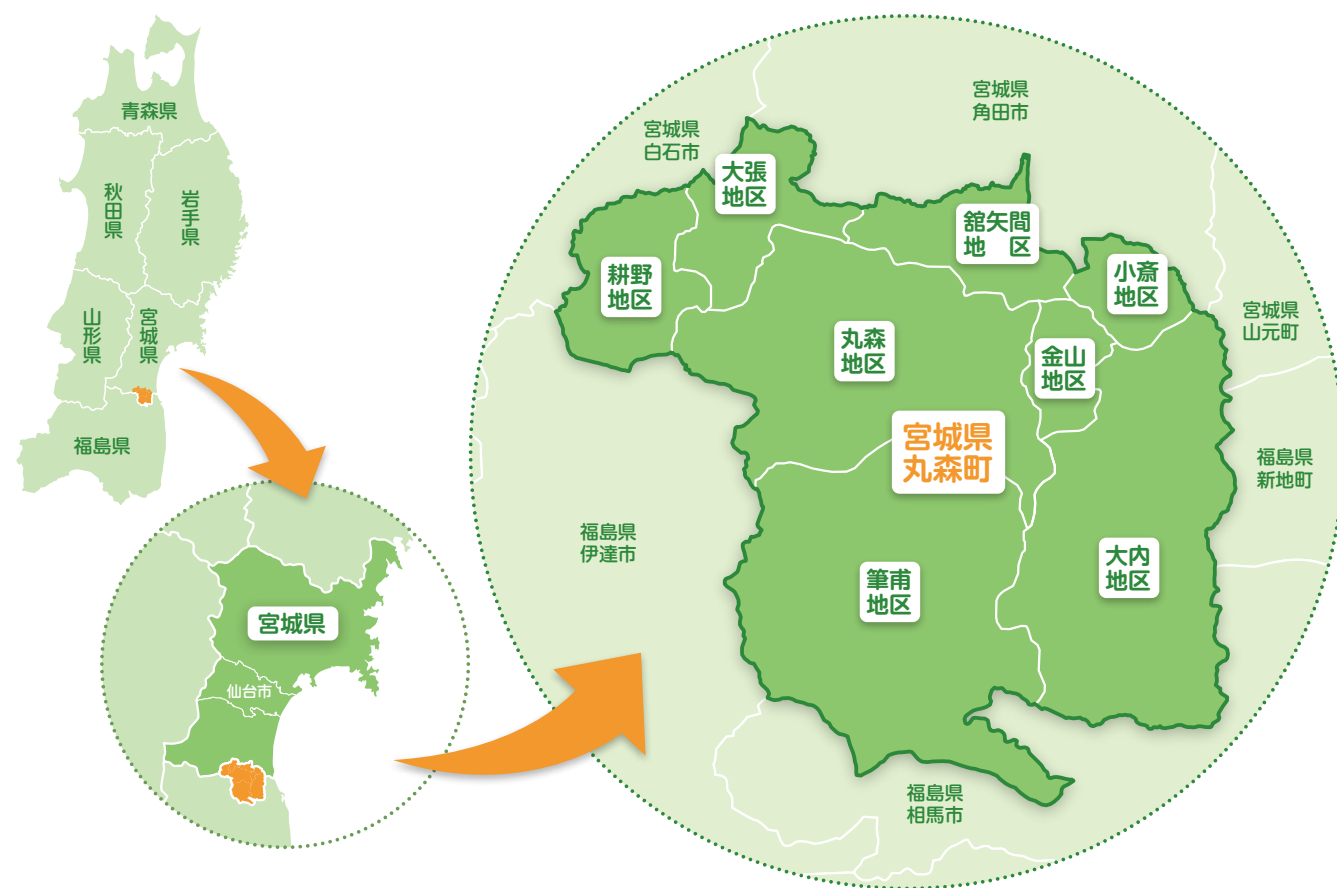
丸森町の概要



丸森町は宮城県の南端に位置し、南側は福島県と隣接。大部分を山林及び丘陵地が占めるものの、町の北部を東北第二の大河である阿武隈川が貫流し、その流域と支流河川の流域一帯が平坦地を形成する総面積273.30平方kmの盆地状の町です。

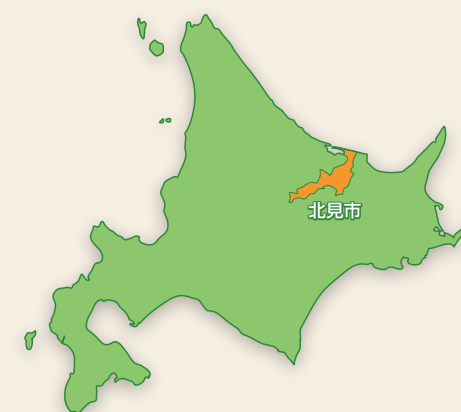
年間降水量は約1,200mmですが、太平洋側特有の春の雪が30cm程度積もることがあります。

優れた自然環境を有する阿武隈川流域やその支流域には貴重な植生群や奇岩等があり、昭和63年11月には阿武隈渓谷県立自然公園として指定されています。



姉妹都市

北海道北見市

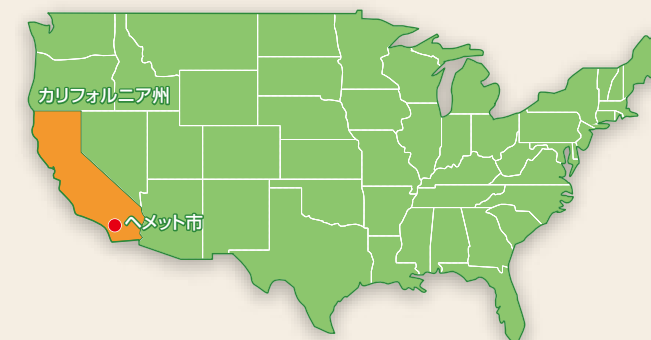


国内交流

- 北見市へ子ども交流使節団派遣
- 北見市端野町子ども交流団受入



アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ヘメット市



国際交流

- ヘメット市親善訪問団派遣



丸森マップ

M A R U M O R I

凡例アイコン

- 名所・旧跡
- インフォメーション
- 国道・県道
- 観光施設
- 木・山



丸森町の特産品

ふるさと納税の返礼品でも、丸森町の特産品をお楽しみいただけます。



ころ柿



11月頃になると、特産のころ柿（干し柿）を軒先にぶら下げる風景が耕野地区中心に町内随所で見られ、丸森町の秋の風物詩ともなっています。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663
FAX.0224-87-6616

へそ大根



輪切りにした大根をゆでて、串刺しして約1カ月間天日干しします。乾燥してできた穴がへそに見えることから名付けられました。

た凍み大根。天然のうまみと甘みが凝縮しています。各直売所等で購入可能。

☎(一社)筆甫地区振興連絡協議会
(筆甫まちづくりセンター内)
TEL.0224-76-2111/FAX.0224-73-6008

まるもりの麺



まいまい う米めんは、宮城県内産のお米を使った麺。精米麺・玄米麺にそれぞれ平麺、細麺があり、温冷ともにおいしく召し上がれます。

☎マルコー食品
TEL.0224-73-3777
FAX.0224-79-3777

ヤーコン加工品



健康野菜ヤーコンを使ったヤーコンドレッシングや、ヤーコン茶、干しヤーコンなどをご用意しています。

☎丸森物産いちば 八雄館 TEL・FAX.0224-72-3188

まるもりの漬物



志白屋の代表作「しそ巻きらっきょう」をはじめ、各直売所ではお母さんたち自慢の漬物や梅干を購入できます。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

まるもりの味噌

山里ひっぼの元気な味噌



大豆と米を無農薬・有機栽培し、天然熟成させた本物の味噌を作っています。

まるもり味噌



丸森産の米と大豆を使用。豆からの栄養を活かした滋養たっぷりの味噌です。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

まるもりのお酒



丸森町産コシヒカリを使用し、苦みを抑え、ビールが苦手な方でも楽しめる「お米のクラフトビール」です。

☎GM7
TEL.0224-51-8804/FAX.022-774-2829

耕野のはちみつ



定番のアカシアやトチをはじめ、さまざまな種類のハチミツを採取しているので、ハチミツの味くらべができます。

☎石塚養蜂園
TEL・FAX.0224-75-3533

ご当地レトルト食品



丸森ならではの食材を使ったイノシシカレーとたけのこカレー。同シリーズのたけのこごはんの素も大人気。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

えごま加工品

えごま油は「陸の魚」といわれ、青魚に多いEPA・DHAを生成する脂肪分が植物の中で圧倒的に多く、健康によいといわれます。丸森町では、特産品として、えごまドレッシング、えごまの実など様々な加工販売をしています。

☎いきいき交流センター大内
TEL.0224-79-3151



まるもりの民芸品



丹精込めて作った「あけびつる細工」「布ぞうり」は民芸品として、また実用品としても活躍しています。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

まるもりの和紙



400年の伝統を受け継ぎ、和紙の原料を栽培し、一枚一枚漉き上げられた丸森和紙。繭、絹糸、桑を原料とした上品な光沢のある珍しいシルク和紙。どちらも作り手不足で希少価値が高まっています。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

丸森の猫なおみやげ



丸森に祀られている猫の石碑は日本一の数を誇り、「猫神さま」として地域に親しまれています。そんな「猫神さま」のどら焼き・最中や、まゆ細工ストラップ、缶バッジなどを町内で販売しています。他にも色々な種類のお土産がありますので、町中にある「猫神さま」ともどもお土産も探してみてください。

☎丸森町観光案内所
TEL.0224-72-6663/FAX.0224-87-6616

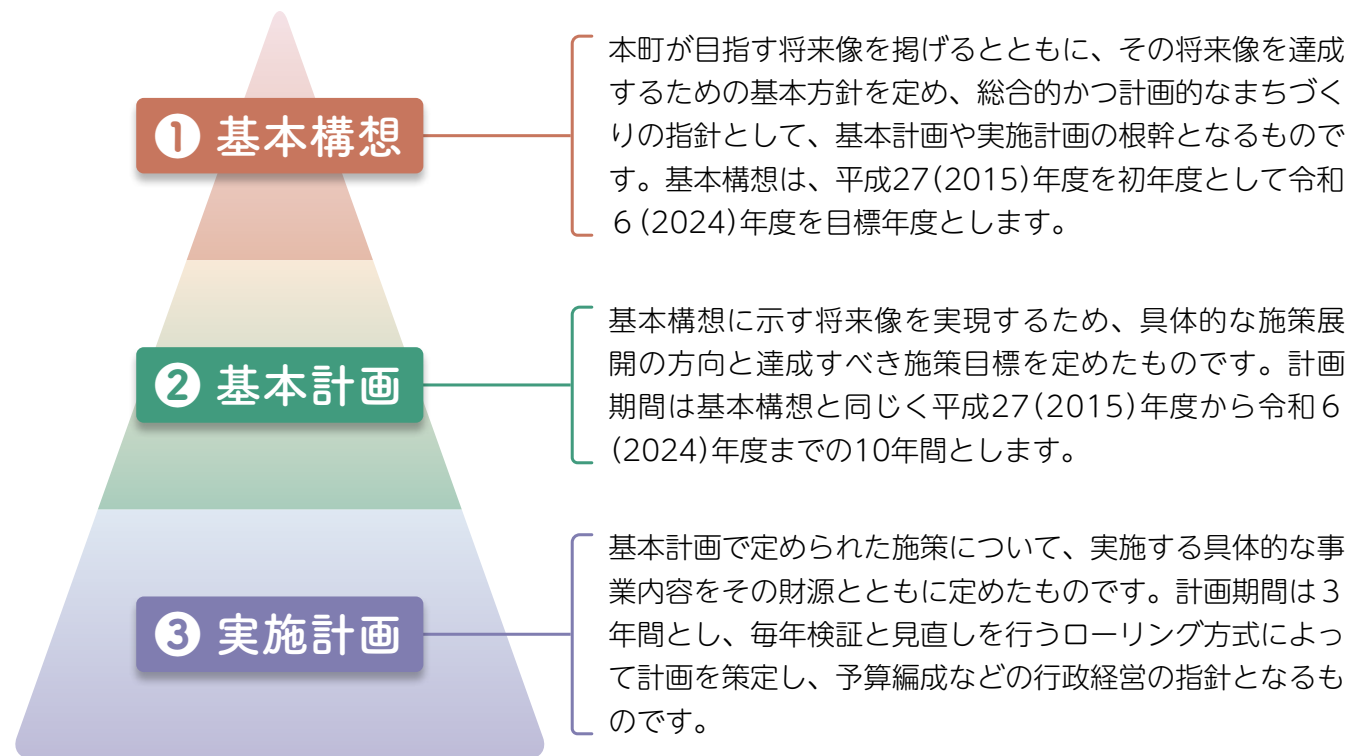
第五次丸森町総合計画



令和6(2024)年度の目標人口を13,000人と定め、将来にわたり、持てる資源と活力を最大限に活用し、持続可能なまちづくりを行なうため、「郷土愛の醸成」、「地域の個性を活かした協働のまちづくり」、「連携と交流」の3つを基本理念として、将来像である「人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり」を目指していきます。

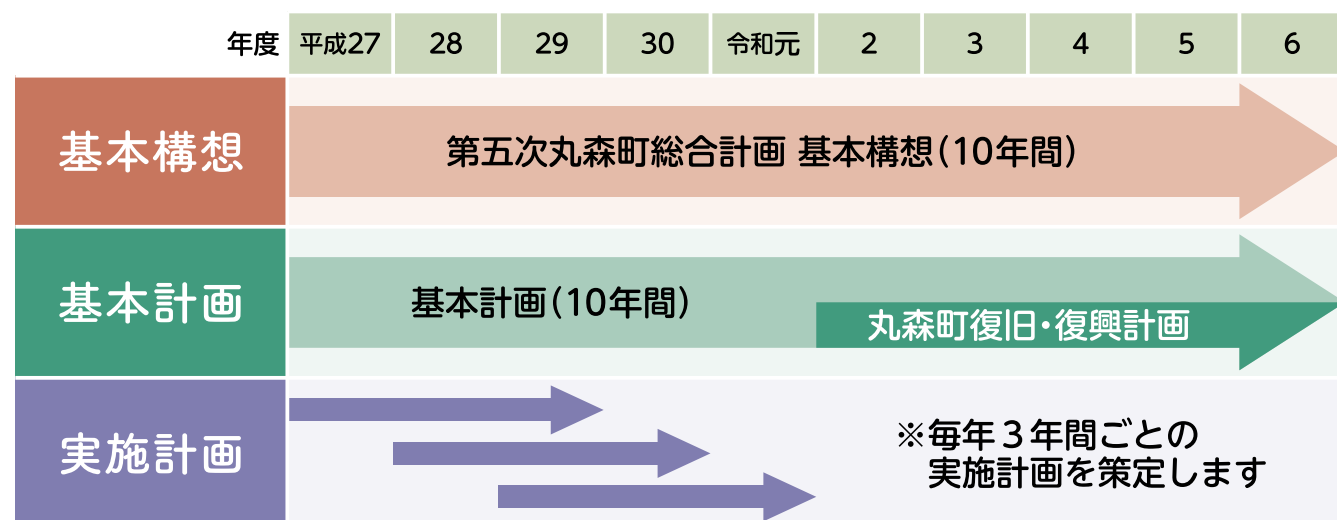
構成と期間

第五次丸森町総合計画



〈計画の構成〉

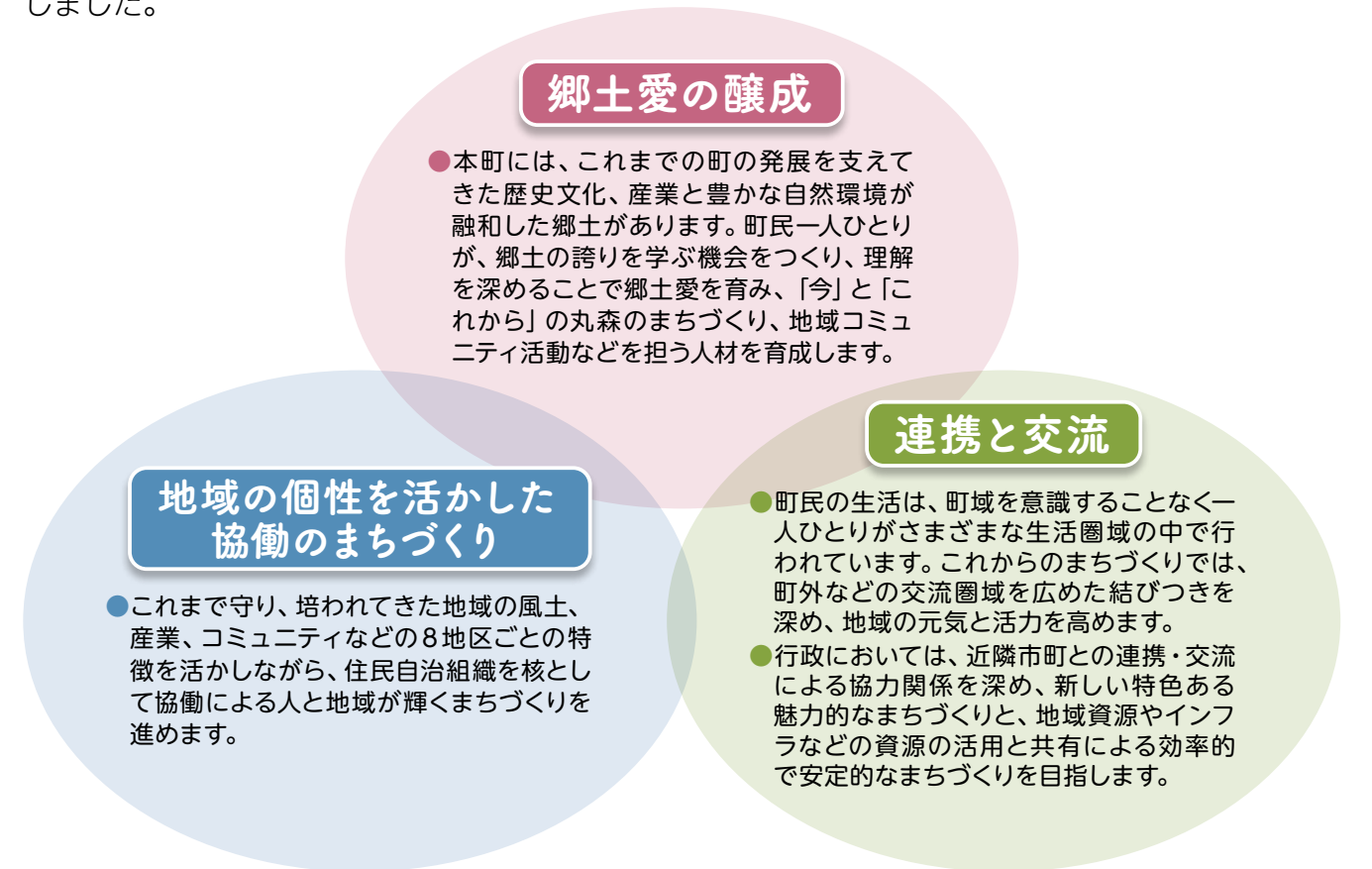
〈計画の期間〉



基本理念

第五次丸森町総合計画

将来にわたり、持てる資源と活力を最大限に活用し、持続可能なまちづくりを行なうため、「郷土愛の醸成」「地域の個性を活かした協働のまちづくり」「連携と交流」の3つを基本理念として設定しました。



将来像

第五次丸森町総合計画

3つの基本理念に基づき、実現すべき本町の将来像を設定しています。

人と地域が輝き 豊かで元気な町・まるもり
～一人ひとりの“郷土愛”で未来につなげるまちづくり～

将来目標

第五次丸森町総合計画

賑わいのある町を維持していくためには、人口の減少傾向を少しでも緩やかなものとしていくことが必要です。そのために、若者定住施策をはじめとした、子育て支援施策や移住者支援を着実に実施するとともに、新たな産業の育成などを実現することにより、本計画の目標年次である令和6(2024)年度の目標人口を13,000人とし、豊かで元気なまちの実現を目指します。



1. 安心して産み育てられる子育て環境の充実

安心して子どもを産み、育てることができるよう、家庭と地域が連携した子育てしやすい環境づくり、子どもがのびのびと成長できる環境づくりに取り組みます。

2. 心豊かな人材をはぐくむ教育の充実

次代を担う子どもたちが安心して快適に学ぶことのできる環境の整備、郷土愛を醸成する教育に取組み、心豊かな人材を育みます。

3. 共に学び、育み、支えあう人づくり

生涯学習のメニューや学習する場の充実等を図ることにより、「郷土愛」を持ち次代のまちづくりを担う人材を育成するとともに、学習した成果を活かすことができる機会を創出し、人が輝くまちづくりを進めます。

4. スポーツ・レクリエーションの振興

町民が気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる機会の提供やニーズに応じた種目の普及と、適切な施設整備と運営に努めます。

5. 暮らしを彩る地域文化の保存・継承

町民参加のイベントや町民の芸術文化鑑賞機会、歴史・文化資源の保存とまちづくりへの積極的な活用などの充実を図り、地域文化の保存と継承を図ります。



1. 健やかな生活を支える保健・医療の推進

「国民健康保険丸森病院」の機能強化を進めるとともに、地域の医療機関と連携しながら、町民の健康の維持増進や疾病予防等を推進し、誰もが生涯を通じて健康で安心して暮らせるまちを目指します。

2. 高齢者の暮らしを支えるまちづくりの推進

社会参加を通じた高齢者の生きがいを進めるとともに、医療機関や介護施設、地域団体などとの連携による支援体制の充実強化を図り、高齢者が地域で元気に暮らせるよう支援します。

3. きめ細かな地域福祉の推進

障がい者のニーズや状態に合った適切な支援体制の整備を進め、地域社会で安心して生活できるまちづくりを目指します。また、地域で福祉を担う人材、組織を育み、地域で支え合う福祉の充実を図ります。

4. 暮らしを支える社会保障制度の充実

安心した日常生活を送る上で社会保障制度は欠かせないものであり、様々な社会保障制度への理解を深めながら、適切かつ安定した運営に取り組みます。



1. 安心・安全なまちづくりの推進

防犯への意識を高めるとともに、「自助」「共助」「公助」の観点から一人ひとりの防災や防火への関心を高め、地域ぐるみの防犯、防災対策を推進します。また、放射性物質の適正処理・適切な情報発信により、安心して暮らせるまちづくりを進めます。



1. 連携による地域づくりの推進

行政が町民にとって身近な存在となることで、まちづくりの担い手の育成と活用につなげるとともに、まちづくりセンターを核とした地域コミュニティの基盤づくりを促進し、元気な地域づくりを進めます。

2. 効率的な行財政運営

効率的かつ健全な行財政運営に努めます。また、国・県をはじめとした近隣市町村との連携・協力による効率的な行財政運営を図ります。

美しい自然環境を次代へ継承するまちづくり



1. 健全で恵み豊かな環境の保全

緑豊かな自然環境は、次代に引き継ぐべき町民の財産であり、町民・事業者・行政それぞれが主体的に参加し、自然環境の保全と活用や緑の創出、資源の有効利用を進めます。

2. 自然エネルギーを活用した低炭素社会の実現

省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入促進などにより、地球環境への負荷を軽減する低炭素社会の実現に向けた取組みを進めます。

地域力を活かした活力を生み出す産業のまちづくり



1. 地域の特性を活かした農林業の振興

地域の特性を活かした安全・安心な農林畜産物を生産し、消費者に提供する取組み、そして6次産業化の展開などによって、農家が真に農業で生計を立てられるように「儲ける農業」を推進します。

また、農地や山林の持つ多面的機能の維持増進を図り、本町の自然豊かな環境を未来に引き継ぎます。

2. 賑わいと活力を生み出す商・工業の振興

商店街における空き店舗活用等による新規商業活動の参入、関係機関との連携による経営基盤の強化を図るなど特色ある商店づくりを促進します。また、地域の特性を活かした企業誘致による就労機会の創出と既存産業の振興を図ります。

農 業

自然豊かな環境や平坦地から中山間地までを有する地形、四季が織りなす気候条件を活かし、地域の特性に合った農林産物の生産と産地化を進めるとともに、消費者との交流や安全・安心な農林産物の提供、6次産業化の推進により、豊かで元気な農業の実現を目指します。

また、生産性を向上させるための農業生産基盤の整備や、新規就農者・集落営農などの育成により、将来的に安定した経営体を確保することで、新たな活力を生み出します。

さらには、農地のもつ多面的機能を維持し、農村資源の保全と活用に努め、良好な農村環境を未来に引き継ぎます。

畜 産

生産基盤の強化を図り、主産地としての地位を確立させるとともに、耕畜連携を推進し、効率的な農地利用と安全で良質な畜産物の生産を進めます。

林 業

豊かな森林資源の有効活用と森林の有する多面的機能の維持・向上を図るため、造林や間伐などを行い適正な維持管理に努めます。

商工業

工業団地の整備を進め、新たな企業誘致を図るとともに、地域の特徴を活かした街並みの整備により商店街の活性化を図るほか、地元企業との連携による賑わいと活力のあるまちづくりを進めます。



1. 多様な資源を活かした観光交流の推進

豊かな自然環境などの観光資源を活かすとともに、「あぶくま荘」や「蔵の郷土館齋理屋敷」等の既存施設の更なる魅力化を図り、広く国内外からシーズンを問わず観光客が訪れる仕掛けづくりを推進します。

2. 友好を深める交流活動の推進

姉妹都市交流を始めとする教育・文化・スポーツ等、多くの人との交流により活力のある地域づくりを進めます。



1. 魅力的な環境整備による定住促進

若者定住施策による活力あるまちづくりを重点的に進めるとともに、町民一人ひとりが安心して暮らせるゆとりと潤いのある魅力的なまちづくりを推進します。また、空き家の増加が深刻な問題となる中、既存住宅の有効利用を図りながら、幅広い世代が魅力を感じる住環境の整備を行ないます。

2. 住民の生活を支える交通環境の充実

町民の利便性と快適性を確保した、総合的な公共交通環境の充実を図ります。

3. 快適で利便性の高い道路環境の整備

日常生活に必要な道路の計画的な整備と、産業を支えるための高速交通網へのアクセス道路の整備を進めることにより、道路ネットワークの向上を図ります。また、道路交通の安心・安全の確保のため適正な道路維持管理に努めます。

4. 快適に暮らせる上下水道の整備

水道水の安全性を高めるために水質管理の強化による安全で安定した水の供給、下水道による汚水の適正処理など、上下水道事業の財政状態及び経営状況を明らかにしながら、計画的な施設更新、整備を図ります。

重点戦略

第五次丸森町総合計画

人口減少や超高齢化への対応、安心・安全のまちづくり等、本町におけるまちづくりの課題は多岐にわたります。令和6（2024）年度を目標とする基本構想に位置づけた将来像「人と地域が輝き豊かで元気なまち・まるもり～一人ひとりの“郷土愛”で未来に繋げるまちづくり～」の実現に向け、効率的かつ効果的な行財政運営を行うため、他の事業を牽引する先導的な事業に重点的に取り組んでいく指針が「重点プロジェクト」です。

本計画では、町の現況や課題等を踏まえて3つの重点戦略を掲げ、それに基づく事業を進めていきます。

重点戦略Ⅰ 丸森で活躍する人を育てる

ふるさと丸森を愛する心を育てるとともに、高い学力を身につける教育環境の整備により、世界に羽ばたく意欲ある人材、町外へ発信力のある人材、地域の活力を担う人材と組織を育成する。

重点戦略Ⅱ 地域が元気な丸森をつくる

地域資源を活かした産業の活性化、地域が主体の再生可能エネルギーの導入、健康寿命の延伸により、地域がいきいきとした元気な丸森をつくる。

重点戦略Ⅲ 丸森で暮らす人を増やす

企業誘致の推進と地域に根付いた雇用をつくるとともに、子育て世代が生活しやすい環境づくりや生活利便性の確保などにより、丸森の定住人口を増やしていく。

重点戦略Ⅰ 丸森で活躍する人を育てる

「郷土愛」を醸成し、丸森の魅力発信や地域に貢献できる創造的な人材を育成する。

事業Ⅰ 「郷土愛」教育事業

事業Ⅱ 子ども向け郷土誌作成事業

高い学力を身につける教育環境の整備を行う。

事業Ⅰ ICT教育環境整備事業

事業Ⅱ 外国語教育充実事業

世界に羽ばたく意欲ある人材の育成と、地域を守り育む人材や組織を育成する。

事業Ⅰ まちづくり人材育成事業

事業Ⅱ 地域貢献組織育成事業

事業Ⅲ 住民自治組織運営支援事業

事業Ⅳ まちづくり活動支援助成金交付事業

事業Ⅴ 丸森びと育成支援事業



齋理屋敷で町の歴史を学ぶ

重点戦略Ⅱ 地域が元気な丸森をつくる

地域の特徴を活かした6次産業化の推進と
丸森ブランドの創出により「儲ける農業」を推進する。

- 事業① 丸森町農業創造センター事業
事業② 儲ける農業実践者ブラッシュアップ事業
事業③ 集落営農育成支援事業
事業④ 特産品開発・販売促進事業

地域資源を活かした観光の産業化、
再生可能エネルギーの導入を推進する。

- 事業① 百々石公園再整備事業
事業② 地域資源を活かした街並み環境整備事業
事業③ グリーン・ツーリズム推進事業

「健康づくり」と「介護予防」を充実し“健康寿命”の延伸を図る。

- 事業① 健康状況把握事業
事業② 認知症総合支援事業
事業③ 家族介護支援事業
事業④ 介護予防・日常生活支援サービス事業
事業⑤ 在宅医療・介護連携推進事業



町特産の「ころ柿」

重点戦略Ⅲ 丸森で暮らす人を増やす

最先端の技術を有する企業誘致と雇用の創出を図る。

- 事業① 工場団地造成事業
事業② 企業立地情報発信事業
事業③ 空き店舗・空き家等活用事業

地域性を活かし、多様なニーズに応じた住環境を
提供することにより、移住・定住を促進する。

- 事業① 定住促進事業
事業② 丸森駅周辺住環境整備促進事業

子育て世代が暮らしやすいまちづくりを推進する。

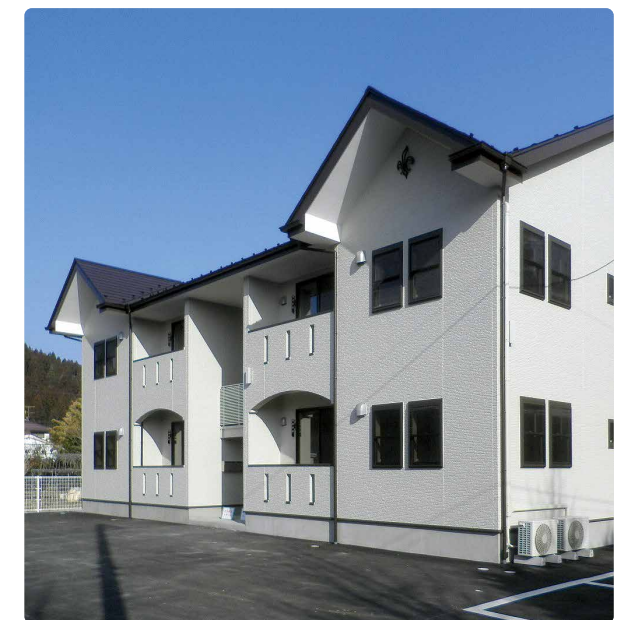
- 事業① 子育て支援センター運営支援事業
事業② 認定こども園運営支援事業
事業③ 子ども医療費助成事業

暮らしを支える公共交通機関の確保と
生活基盤の整備を推進する。

- 事業① 丸森町阿武隈急行線利用促進事業
事業② デマンドタクシー運行事業
事業③ 町民バス運行事業
事業④ 主要地方道白石丸森線整備促進事業
事業⑤ 町道改良舗装事業



空き家を改装して飲食店を開業



若者向け定住促進住宅

令和元年東日本台風

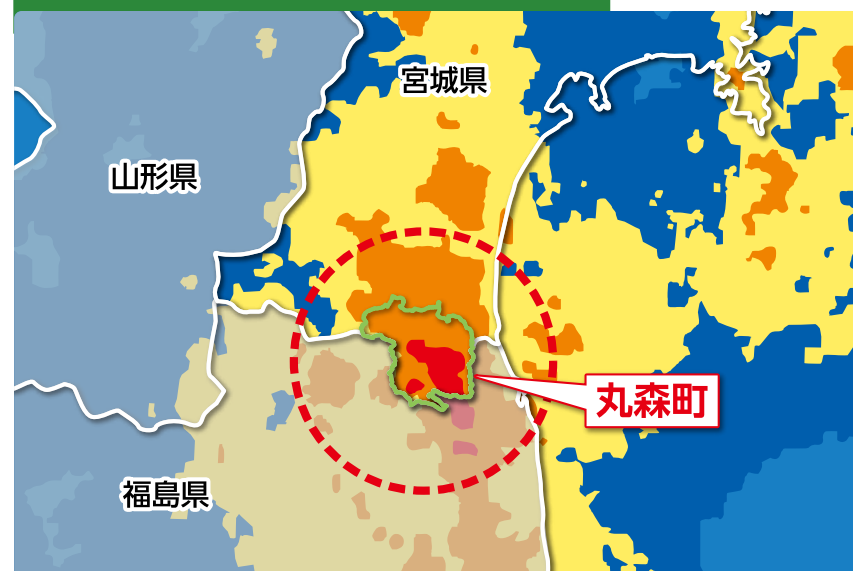


令和元年東日本台風 令和元年10月12日～13日

令和元年東日本台風

令和元年10月6日にマリアナ諸島の東の海上で発生した令和元年台風第19号（アジア名・ハギビス）は、大型で非常に強い勢力を保ちながら本州に接近。10月12日19時頃伊豆半島に上陸した台風の影響により、南から暖かい大量の水蒸気が流れ込み、12日の夕方から13日の明け方にかけて局地的に猛烈な雨となりました。短時間で集中的に降り続けた猛烈な雨は、丸森観測所（平成9年観測開始）と筆甫観測所（平成10年観測開始）の3時間、6時間、12時間、24時間雨量で観測史上最大を記録し、内水氾濫、阿武隈川や支流の越水と堤防の決壊、冠水、さらに各地での土砂災害を引き起こし、丸森町の地質的な特性を含む複合的な要因が重なった結果、大規模な被害が発生しました。

10月12日19:50までの1時間降雨量



1 5 10 20 30 50 80 mm

出典：©Japan Meteorological Agency 2018
気象庁レーダアメダス解析雨量



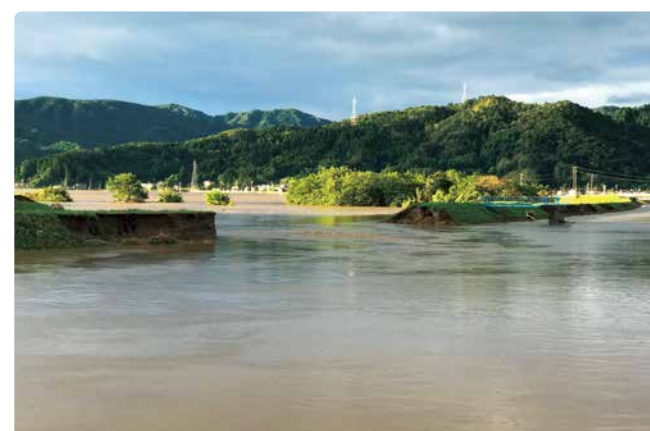
内 水氾濫

短時間に大量の降雨が継続したことで、役場周辺では、内水対策として設置している雨水ポンプ場や排水ポンプ車が浸水により機能停止、その後、役場周辺の浸水が解消するまで、4日間を要しました。



越 水・決壊

町内6箇所の全ての雨量観測所で史上最大の雨量を記録した豪雨は、18箇所の堤防を決壊させ、住宅地への浸水を引き起こしました。



土 砂災害

町内で150箇所以上の土砂崩れが発生しました。



丸森町の被害

令和元年東日本台風

町政史上もっとも甚大な被害となった今回の災害では、災害関連死も含め11名の尊い命が犠牲となり、1名が依然行方不明となっています。

住家の被害は1,068件に上るとともに、町が管理する道路や河川等の公共土木施設及び農林業施設等において、2,904箇所、376億3千万円の被害となったほか、行政施設や学校教育施設等の公共施設においても24億円の被害が生じました。さらには、農作物や農業用機械をはじめ、商工業者の施設・設備などの本町関連産業の被害は72億5千万円に上り、総額で472億8千万円の被害となりました。

人の被害

死亡者	災害関連死	行方不明者
10名	1名	1名

建物の被害

単位：件

被災地区	床上浸水・床下浸水・土砂・その他 調査結果合計					
	全壊	大規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	計
丸森	78	167	282	7	126	660
金山	4	38	217	1	38	298
筆甫	9	7	27	1	32	76
大内	10	4	52	2	48	116
小斎	4	25	16	0	11	56
舘矢間	2	1	10	3	48	64
大張	4	4	15	0	16	39
耕野	4	2	14	0	13	33
合計	115	248	633	14	332	1,342

(令和3年12月31日現在)



被害額

2,904箇所／被害総額：472億8,164万円

施設名等			個所数	金額(千円)
公共土木施設			683	12,553,000
	土木施設	道 路	341	6,428,300
		河 川	338	4,764,700
		橋 梁	3	260,000
	都市施設	公 園	0	0
		雨水ポンプ場	1	1,100,000
			2,216	24,678,846
農林業施設	農業用施設	農 地	786	8,830,100
		水 路	676	8,627,300
		農 道	470	2,779,046
		頭首工等	108	1,850,100
	林業用施設	林 道	155	2,204,000
	揚排水機場		21	388,300
公共下水施設			3	51,000
農業集落排水施設			2	350,000
小 計				37,632,846
行政施設・学校教育施設・公営住宅ほか				2,402,784
農作物(364ha)・農業用機械等				1,145,440
商工業関係				6,100,570
合 計				47,281,640



復旧・復興への取組



復旧・復興計画 ～共に立ち上がろう 次代につなぐ新たな丸森づくり～

復旧・復興への取組

町は、甚大な災害からの着実な復旧・復興を果たしていくため、令和元年12月に「丸森町復旧・復興基本方針」を策定しました。復興に向けたビジョン（あるべき姿）を「共に立ち上がろう 次代につなぐ新たな丸森づくり」とし、基本理念「より良い復興」「誰一人取り残さない」「持続可能な開発目標の精神に基づいた復興」「協働によるふるさと再生」を掲げています。そして、令和2年6月には早期の復旧・復興と町全体の持続的な発展に向け、具体的取組や期間等を明示した「丸森町復旧・復興計画」を策定しました。

計画の位置づけ

「第五次丸森町総合計画」と「丸森町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で目指す町の将来像を基本とし、令和元年東日本台風で被災した住民の生活再建や顕著となった課題を解決するための指針としています。

計画の期間

令和2年度から令和6年度までの5年間

復興の主体

復興の主体及び担い手は住民一人ひとりです。住民と行政が協働し、関係機関や外部人材と連携して、復旧・復興計画のビジョンの実現を目指します。

災害公営住宅等の整備

復旧・復興への取組

被災者の生活再建に向けて、将来にわたり安心して暮らせる住環境を提供するため、令和2年6月に「丸森町災害公営住宅・町営住宅整備方針」を策定。「丸森町復旧・復興計画」の重点プロジェクトに掲げる「町産材を活用した災害公営住宅整備・町営住宅再建プロジェクト」として、町産材の活用や地元業者への発注により、被災した住民の住環境の確保と、併せて疲弊した本町経済や林業などの産業の活性化が図れるように進めました。

令和2年10月には、地元業者を中心に設立した一般社団法人丸森町復興住宅建設協議会と協定を締結し、「オール丸森」「チーム丸森」を合言葉に整備がはじまりました。

	災害公営住宅	神明住宅	竹谷住宅
整備地区	神明北地区	神明地区	竹谷地区
整備戸数	50戸(新設)	90戸(建替え)	20戸(建替え)
構造・階層	RC造5階建 (最上階に集会所を設置)	RC造5階建 (最上階に集会所を設置)	木造平屋建
	木造平屋建	木造平屋建	
被災前戸数(解体戸数)	—	106戸	21戸
被災時入居戸数	—	92戸	17戸

被災者支援の取組

復旧・復興への取組

町は、被災された方が安心して生活を送り、日常を取り戻すことができるよう、令和2年1月20日に「地域支え合いセンター」を設置し、見守り・相談支援業務を丸森町社会福祉協議会に委託しました。

地域支え合いセンターでは、仮設住宅や在宅被災者を対象に、巡回や訪問を通しての見守りや声掛けを行うとともに、個別事情を含めた生活相談を行っています。訪問や聞き取りで得られた情報をもとに、関係者の会議で支援のあり方を協議し、地域関係者も含めた複数の視点で生活の再建状況を確認し、必要な支援につなげています(写真①)。生活支援相談員による訪問は累計8,432件で、被災者の生活再建状況は54.0%となっています。(いずれも令和3年12月31日現在)

また、令和3年度より「NPO法人オペレーション・ブレッシング・ジャパン」に応急仮設住宅等におけるサロン運営を(写真②、③)、「一般社団法人まなびの森」に子どもの居場所づくり・学習支援を委託し、多面的な被災者支援を行いました。

このほか、町内の関係者や各種団体との連携により、これら事業から発展した様々な被災者支援活動が行われました。(写真④)

生活再建の判断項目
(1) 制度の利用
(2) 住環境
(3) 被災者本人の主観
(4) 生活支援相談員による客観的視点
(5) 地域関係者の客観的視点



①相談員が訪問



②仮設住宅でラジオ体操



③金山で開かれたサロン



④伊具高等学校の生徒と一緒に苗植え

地域防災計画の改訂

復旧・復興への取組

防災の基本である「減災」の考えに基づいた実効性のある防災対策を迅速かつ適切に実践できるよう、令和3年6月に丸森町地域防災計画（風水害等災害対策編）を改訂しました。

改訂ポイント

（１）住民への防災知識の普及に対する取組

令和元年東日本台風の記憶を後世に伝え、一人ひとりが防災意識を高め、災害への備えを充実させるため、10月12日を「丸森町鎮魂の日」と制定。

（２）町職員の配備体制と配備基準の見直し

（３）避難情報発令範囲の改訂

（４）指定緊急避難場所と指定避難所の見直し

風水害時に利用できる指定緊急避難場所と指定避難所の見直し。

（５）避難場所の運営等について



大張小学校での防災講話



丸森町総合防災訓練での避難所開設訓練（伊具高等学校体育館）

内水氾濫への備え

復旧・復興への取組

内水氾濫の被害は、町中心部で床上・床下浸水を含め428戸に上るとともに、災害の応急対策を担う役場庁舎や消防、警察、病院を含む一帯で発生したため、今後の災害対応も含め、排水対策が急務となっています。

雨水ポンプ場の新築と直接放流管（バイパス管）の整備

町では、これまでの雨水排水計画を見直し、雨水ポンプ場の新設と阿武隈川へ直接つながる直接放流管（バイパス管）を整備し、町中心部の内水氾濫対策を行います。

被災時
3.94m³/秒

被災時と比べて
約2.5倍の排水量

令和5年度
9.94m³/秒

将来計画
10.00m³/秒

防災拠点の整備

復旧・復興への取組

町では、令和元年東日本台風の災害対応を踏まえ、災害発生時に防災関係機関と連携して、迅速に応急活動を実施するため、その活動拠点となる防災拠点の整備を進めています。

丸森地区河川防災ステーションの整備

令和3年3月、阿武隈川下流における丸森地区防災ステーション整備計画が登録され、5月に登録通知の伝達と河川防災ステーションの整備における確認書の調印を行いました。

